

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学) 岡村学園 のぞみ幼稚園

1. 本園の教育目標

素晴らしい環境のもと、楽しい集団生活を通して、その性格の基礎を培い、個々の善性を認め、更に豊かな情操と理性を伸ばし、心身共に健康で希望に燃え、意欲的に明るく伸びゆく子どもの育成に努めております。

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

体育活動を通して元気なからだ、強い気持ちを育て、礼儀挨拶を大切に素直で生活にけじめある保育をしていく。

ひとりひとりを大切に、先に進みたい気持ち、伸び悩んでいる子に目を向ける。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
1	保護者対応	A	園便りやメール、連絡帳等で情報や子供の普段の様子などを伝える事が出来た。
2	保育の質の向上	A	体育活動を通して体を動かす事が好きになり、強い気持ちが育っている。教育内容の改善を行っているが、少しずつ形になり職員の意識も高まった。
3	教師としての資質	A	研修などを通して、教師として以上に人として成長出来るように努めてきた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果 A

若手職員も意識が上がり積極的に学ぶ姿勢が見られた。今年度は主任をはじめ経験職員が若手職員をフォローできるような体制になり、子どもの成長にとっても良い環境になりつつある。体育活動では、子ども達の大きな成長が見られ、保護者からの良い評価を得られた。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保護者対応	保護者からの要望に対して、積極的に改善していく。
2	環境	園舎の外壁を回収して危険な箇所をなくす事に取り組む
3	安全管理	避難訓練を定期以外にも行う。

6. 学校関係者評価委員会の評価

先生たちがよりいっそう明るく、一生懸命保育してくれたお陰で、楽しく幼稚園に通う事が出来た。子ども達の成長や成果を見る事ができ良かったと思う。特に体育活動での子ども達の成長は目に見えて素晴らしい。今後もひとりひとりを大切に、子ども第一で色々な事に積極的に挑戦して行って欲しい。

令和5年度東京都私立幼稚園教育推進向上支援事業補助「体育活動」報告書

1.概要

年長児年中児では週1回40分程度、年少・満三歳児では月2回30分程度、体育講師による体育指導を実践した。また体育講師に運動会などの園行事に参加してもらうことで、自園独自の体育活動発表(組体操やバルーンなど)をおこなうことができた。

2.「体育活動」のねらい

- ①楽しく体を動かし健康維持と体力づくり。
- ②体育器具(マット、跳び箱、鉄棒、平均台)や手具(縄跳び、ボール)を正しく使用の仕方を理解し楽しみながら体験し、慣れ親しむ。
- ③できた喜びから成果を感じ取り自己肯定感を得られる。
- ④できないことで挑戦意欲を高め、壁にぶつかったときに逃げずにやり切る力を養う。
- ⑤ 小学校へ向けての体力面や経験面での事前予習準備。

3.「体育活動内容」(詳細は以下カリキュラムのとおり)

4.期間

【回数】年長、年中 週1回 (1回 40分) 年少 月に2回 (1回 30分)

【期間】8月を除く11ヶ月

5.「体育活動」講師

年長担当：小島 識誉(こじま のりたか)

年中担当：清水建二

年少・満三歳児担当：馬場昭

6. 成果

満三歳児：指導員の模倣をし、体全体を使いその場での体操、動物歩行を行った。

動物歩行は、両足ジャンプ、ほふく前進、ケンケン、ギャロップ、4つ足歩行を実施。

その他、壁をよじ登る逆立ちも継続して実施し、一人で体を支える腕力がついた。

更に、バランス感覚を養う為エバーマット上を歩いたり、壁を使用しての片足立ちやケンケンを行い、最終的に壁を触らなくても片足立ちやケンケンが出来るようになった。

年少児：色々な体操器具を使用し、小さな成功体験を繰り返すことで出来る喜びと新たな事にも挑戦する意欲が高まりました。マットでは横転や前転、跳び箱はよじ登りや飛び降り、鉄棒ではぶら下がりや足抜き回りが一人で出来るようになりました。縄跳びは前後の回し方や2つ折りでの歩き跳び、ボールは集団ゲームの中当てが出来るようになりました。

年中児：一年間の纏めではドッジボールを行い、園長先生からは「年中児でもドッジボールができるんですね」と子どもたちを誉めていただきました。

ドッジボールにおける俊敏性の他、ルールを理解する、友達を協力する、思いやりなど運動を通し心の部分も成長できました。

縄跳びでは協応動作が身に付き90%以上の子が連続跳びができるようになりました。一年間、色々な種目に挑戦し子どもたちは次年度年長児に向け身体を動かす楽しみ、意欲に繋がりました。

年長児：職員からは「体育活動は体を動かす喜びを感じ、楽しみながらおこなえました」という回答をもらった。年長児はブリッジ100%、縄跳び前とびは95%という成果が出た。

年少児、年中児も積み重ねた指導より様々な経験をし年長児になった時に小学校進学準備となる成果に結びつくようにしていく。

保護者からは、「子どもが体を動かす事が好きになり、活発に行動できるようになった」という声が上がっています。